

「我等が眼拙^{わざわざ}して、文字とは見参らせ候なり」（妙心尼御前御返事）
と呵責せられました。我等衆生の間違いであります。

寿量品に建立する所の本尊は、

~~一度すべき所に隨て、処々に自ら名字の不同、年紀の大小を説き、乃至德薄垢重の者には、是の人の為に、我少^{すこ}うして出家し、阿耨多羅三藐三菩提を得たりと説く~~
我等德薄垢重の者を度せんが為に、種々の名字、大小の年紀を説く中に、且らく釈迦牟尼仏と称する、一名字を作ったに過ぎない。

~~衆生の度すべき所に隨つては、曼荼羅ともなり、経巻ともなり、草ともなり、木ともなり、名字の不同、年紀の大小を説き給う。或く皆寿量品に建立する所の、教主釈尊の、衆生濟度の、如來秘密神通之力ならざるものはないませぬ。~~

~~人本尊と法本尊との相違は、礼拝される主体たる、本尊自身に存在するに非ずして、むしろ、礼拝する主体たる、衆生の見解の浅深相違に因るものであります。宗教的に信心・渴仰する者が、人本尊を求め、哲学的な観法・観念に耽る者が法本尊を求むるのであります。要するに法本尊は、天台の袋担ぎに過ぎない。己心本尊は神祕哲学の軌道を弃つて、終に但信口唱の宗教の本筋からの脱線事故であります。~~

(四七四頁)

- 8 -

歐州第一塔定礎式法語

昭和五十四年四月八日

於 ミルトン・キーンズ

南無妙法蓮華經

人類の歴史は最初から今日に至る迄、甚だ多く戦争の記録を載せて居ります。古今東西に亘て大小無数の戦争に共通して云へる事は、全ての戦争は人類の犯す罪惡の総結集であり、戦争は人類の流す血と涙の記念碑であります。
一将功成つて万骨枯る、と謂はれたるが如く、一人の戦争計画の政治家、一人の戦争指揮の將軍の戦勝利の功名が賞讃さるる時、そこには幾万幾千万の老若男女が何の犯せる罪も無きに傷つけられて不具者となり、殺害されて骸骨となり山野に棄てられ、財宝は掠奪され、家屋は破壊され、生き残った者は

- 9 -

奴隸化されてしまいます。

彼の戦争の政治家や将軍は戦争の犠牲となつた人々の怨恨悲歎を鎮めんが為に、殺人破壊の戦行動動に対して「神聖」「愛國」と云ふが如き宗教的美名を与え、「正義」「勇敢」と云ふが如き道徳的名号を与えました。神聖にして愛国、正義にして勇敢たる戦争行動は、人類生存の根本条件として承認されるが故に、人類の歴史は戦争の歴史となりました。

戦争は古代野蛮人の作せる処ではありませぬ。現代文明人と称する者の最も多く作る処であります。世界に於て最文明を誇る諸国家は、国防費と称する戦争計画に其総生産の何割合かを濫費して居ります。北米が第一、ソ連が第二であります。日本の如きは国防費の増額をアメリカ首脳が強制して居ります。

戦争は何時か終息する時代が到来するでしょうか。やがて戦争終息の時代が到来します。その時代は幾年後でせうか、戦争終息の時代は恐らく今世紀末、則二十年以内であると原子物理学者は計算して居ります。是を第二次世界大戦と呼びます。それは如何なる条件に由て戦争が終息するでしょうか。核兵器が世界中に拡散し、権利貪欲の情が人の心に増大することに由て、宛も当然の権利の如く容易に核兵器を使用し、人類の文明と共に一切の存在が焼き盡されるが故であります。

一九四五年八月六日、日本国の広島、同八月九日長崎に投下されたる原子爆弾は、第三次世界大戦に

- 10 -

於ける人類全滅戦の様相を鮮明に映し出せる予告戦でありました。

その原子爆弾による被害、広汎なる破壊と残酷なる殺害の状況が世界に報道せらるるや、これを聞いて手を拍つて歓喜の声を上げし者は、これを開発せし科学者であります。彼等科学者が開発せし科学的真理と称するものが実際に応用されたる時、人類未有の大成果を挙げたる故であります。則科学の勝利であります。科学者は原爆の開発に就て何等犯罪を負ふ可き所以は無い。原爆を戦争に採用して殺人破壊を行へる政治家軍人が原爆の犯罪を負ふ可きものであると弁解して居ります。現代の科学文明とは、かくの如き浅間しき輕薄なるものであります。

科学者の泰斗にして核兵器開発の指導者たりしアインシュタインと哲学者のラッセルは、流石に核兵器の開発がやがて人類全滅の悲劇が演ずる事を憂慮して、「人類全滅を阻止せんが為には、何よりも優先して核兵器廃絶を検討し、宣伝すべきである」と決議しました。

この決議を受けて世界の科学者は、カナダのバグウォッシュと称する無名の寒村に集会し、その決議を世界各国の首脳者に贈て警告を発しました。其後も、引続て科学者は数々集会し、この決議を各国の首脳に贈て警告して居ります。それにも係らず、核兵器の開発製造売買は、反対に世界各国に流行して止まる所を知りませぬ。これに由て科学文明は自ら全滅するより外に救済の手段が無い事が判然しました。

- 11 -

科学者の警告の中に確かに救済手段として提案されたるものは、彼の古き道德律の一端であります。それが役立つものならば最初から戦争などは起らなかつたでしよう。それは何の役にも立ちませぬ。これに於て、当然人類全滅の予告は発表されざるを得なくなりました。

人類全滅の危機は、近代科学者が発表するよりも數百千年の遙かに往昔に既にこれを予見し、これを警告するのみならず、これが救済の方法を残し留められたる者が有ります。これが則宗教文明であります。もし宗教文明が無かつたならば、人類は、貪欲と惰慢と戦争とに由て、遠くの昔に已に亡び去つたでせう。

宗教文明の中にも、仏教の教主釈迦牟尼世尊は、妙法蓮華經如来寿量品に、「衆生劫盡きて、大火に焼かるると見る時も、我此土は安穩にして、天人常に充滿せり」と説かれました。

人類全滅の災害は、第一の太陽と呼ぶる人造兵器原水爆の爆発による大災であります。人類全滅の時代は、仏滅後一千五百年、則五百歳の第五の五百歳と説かれてあります。

然るに、此娑婆世界、則此国土世間は、万物を生長せしめても、万物を焼き盡すものではあります。我此国土は、本来安穏であります。此国土に生れたる人類は、歡喜を求め平和を作らんとする者であります。滅亡を求め、殺害や破壊を行はんが為に生れたる者ではありません。そこに宗教的教済が成

- 12 -

立ちます。

核兵器の恐怖も、幾名かの科学者の考案せる凶惡なる器械に過ぎませぬ。この凶惡なる器械も自ら凶惡なる炸裂を為すものではありません。人の手の作用が凶惡なる炸裂をさせます。人の手は独りで動きませぬ。その手を動かすものは人の心であります。人の心は数々罪悪を犯しますけれど、決して罪悪で凝結せるものでは有りませぬ。人の心は道徳的には善と云ひ、耶蘇教には愛と云ひ、仏教には慈悲と云ふが如き活動を日夜行ふて居ります。人の心の善の活動が人の惡の活動に勝った結果が、則現在地上に生存し繁栄せる人類社会の生活状態であります。科学的真理の開発には善悪はありません。科学的開発が、人の心の悪を利用せらるる時、人類全滅の危機となります。一般動物には善悪の判断がなく、慈悲や愛情の指導もありません。但暴力の依存するのみであります。多少繁殖する動物は、其暴力よりも、寧ろ慈悲愛情にも似たる生活を営むが故であります。

- 13 -

幾十億万人の心を善の一点に融合せしむる可能性が信せられます。夫婦相愛して、一生を暮し、子孫を育てて、人類生存の基を開きます。世界平和建設の原理は此處に在ります。人類は天地の不思議の力、自然の自在なる力を知ると同時に、自己の力の限度を知ります。自然崇拜の宗教が起ります。人の心の不思議なる活動を知る時、精神的宗教の信仰が起ります。

宗教的信仰には宗教的教訓が与えられます。宗教的教訓を実行するものを修行と云ひます。宗教的修

行は、最簡易にして、最も修行し易いものでなければいけません。その手を合掌せしめ、その身を礼拝せしめ、その口に、南無妙法蓮華經と唱え、その心に尊敬せしめます。彼の宗教的教説と云ふ釈迦牟尼世尊の大悲願は、我等衆生のこの如き微細なる行動に由て達成せられます。

天地宇宙に対する宗教的教訓を人類社会の生活に応用し、相互に尊敬し、尊敬される時、戦争が起る余地が何処にあります。戦争、核戦争も根本は他人を尊敬せず、他人を礼拝せざる、無宗教無信仰の科学文明の招く人類の災害であります。

科学文明は人類生存の目的に道徳的価値を見失ひ、宗教的尊厳を見出さず、但戦争に勝利するを以て人類生存の原理と想ふ処が彼の運動遊戯、就中、オリンピックによく表現されております。優勝劣敗を信仰条件とする処に戦争が激化し核兵器が開発されました。核兵器を廃絶し、戦争を廃絶する方法を人の心に求むる時、何の造作も無く困難も無く宗教的信仰を發して宗教的教訓に従ひ、宗教的行動を起します。その第一条件は、世尊の制定せられし不殺生を受持する事であります。他の生命を奪はんが為には技術も必要であり、器械も必要であります。他の生命を殺さない為には、何の技術も必要で無く、何の器械も要しませぬ。

唯自ら不殺生戒を受持すればよいのであります。不殺生戒を持つ時、核兵器を憚む心、戦争を拒む心が現れます。それに由て人類の未来は、恐怖無く、生存と繁栄とに照らし出さるるであります。

- 14 -

科学文明の没落、戦争行動の終息、人類全滅の危機を數はんが為に、不殺生戒を授け給ひし釈迦牟尼世尊の遺身舍利を祀り、世界平和の曙光を掲げんとして、此處英國の平和的新都市ミルトン・キーンズ市の景勝の地に謹んで平和の宝塔の定礎式を挙行致します。

南無妙法蓮華經

維時、一九七九年四月八日

日本山妙法寺 藤井日達 啓白

- 15 -

吉野山宝塔落慶二周年記念大法要御法話

昭和五十四年四月十六日 於吉野山

南無妙法蓮華經

吉野山の宝塔落慶二周年記念の法要を勤める事が出来ました。

遠くスリランカの方から北斎が大勢参詣して頂きました。又スリランカの大使閣下、インドの大天使閣下、英國のミルトン・キーンズの開発公団の代表の方々、マハトマ・ガンジー翁の孫娘さん、その